

“ファミリー”という名のとおりの場

幼稚園の頃の先生に憧れ、保育士を志して短大へ進学。「続けられるか不安もありませんが、気づけば楽しく働き続けています」と絵幡さん。子どもたちと過ごす日々は、今も変わらず大切な時間です。結婚後、長女が小学1年生になるタイミングで夫の実家のある小美玉市へ。義母もMyuの公演を楽しみにしてくれています

「ど」にも参加。中学生の先輩たちと同じ場で会議に参加し、自分の意見を伝える経験を重ねています。「娘の『やりたい』に一緒に関わることで、私の世界も広がりました」。

保護者の皆さんとともに、Myuの舞台美術、小道具、衣裳製作に参加。一人ひとり違う衣裳を着る作品のため、苦労しながらも渚さんのおかげの衣装を共同作業で

と会話が生まれ、子どもの成長と一緒に喜び合える環境に、「Myuの皆さん」が娘の面倒を見てくれたり、私もMyuの子たちが成長していくのを見守っていて、演劇ファミリーという名前とのおりだなど感じます」。

絵幡さんにとって大きな喜びになっているMyuの活動。誰もが当事者になれる場の価値を改めて感じました。

（藤田佐知子）

成長を見守る 喜びを感じる

「ど」にも参加。中学生の先輩たちと同じ場で会議に参加し、自分の意見を伝える経験を重ねています。「娘の『やりたい』に一緒に関わることで、私の世界も広がりました」。

保護者の皆さんとともに、Myuの舞台美術、小道具、衣裳製作に参加。一人ひとり違う衣裳を着る作品のため、苦労しながらも渚さんのおかげの衣装を共同作業で

と会話が生まれ、子どもの成長と一緒に喜び合える環境に、「Myuの皆さん」が娘の面倒を見てくれたり、私もMyuの子たちが成長していくのを見守っていて、演劇ファミリーという名前とのおりだなど感じます」。

絵幡さんにとって大きな喜びになっているMyuの活動。誰もが当事者になれる場の価値を改めて感じました。

（藤田佐知子）

す
M y u ミュージカル「わたくしとおばけのケーキ屋さん」のキャスト募集の際に娘の諸

と会話が生まれ、子どもの成長と一緒に喜び合える環境に、「Myuの皆さん」が娘の面倒を見てくれたり、私もMyuの子たちが成長していくのを見守っていて、演劇ファミリーという名前とのおりだなど感じます」。

絵幡さんにとって大きな喜びになっているMyuの活動。誰もが当事者になれる場の価値を改めて感じました。

作り上げました。一舞台照明が入った瞬間、感動しました。苦労した甲斐がありました」と振り返ります。

みの「れ住民劇団」演劇アミリーMyuで舞台美術、小道具、衣装製作として参加。親子で舞台づくりに関わりながら活動を続けています。「Myuは、みんなで子どもを育てている場所」と話す、小美玉市竹原地区在住の絵幡裕美さんにお話を伺いました。



みの～れ住民劇団 演劇ファミリーMyu

え ばた ひろ み 絵 幡 裕 美 さん

みの～れと共に生活するスタイル **Minole Life** のすすめ

No.221

(藤田佐知子)